

令和 7 年度

学校関係者評価報告書

令和 7 年 1 2 月

学校法人中部学園

中部楽器技術専門学校

令和7年度 学校関係者評価報告書

学校法人中部学園
中部楽器技術専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人中部学園中部楽器技術専門学校 学校関係者評価委員会は「令和5年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1 学校関係者評価委員

(1) 委員

井下克一 (株)愛知キャピタル 代表取締役社長)
梶田詩織 (ビューフェ克蘭ボンジャパン 営業部チーフ)
矢木敏喜 (株)矢木楽器 代表取締役)
松石奉之 (愛知県楽器商組合 顧問)

(2) 事務局

角堀雅信 中部楽器技術専門学校 学校長
早川昌幸 中部楽器技術専門学校 渉外部長 (進路指導部長兼教務部長※6年度)

2 令和6年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1 教育理念	・建学の、理念のもと教育理念・目標を定め、音楽業界にとっても有益な人材の育成に努力している。	教育理念等は、入学式やオリエンテーション等で保護者、学生に周知されているが企業等に対しても広く発信をしていく。
	・業界のニーズを発掘する場所として教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会における委員の方々から意見を取り入れている。	・業界のニーズの変化に対応するためには、時代の変化に順応した教育課程の編成し、意見を取り入れていく必要がある。
	・運営方針及び事業計画が策定されており、また運営組織やその意思決定の過程も明らかである。	事業計画に沿った目標意は、向上しつつあるも、今後は更なる理解と目標遂行に向けてのスキルアップが必要である。
2 学校運営	・教職員全員が事業計画に対する意識・実行を深めていく必要がある。	・教職員の組織体制の整備を充実し、情報システム等化による業務の効率化が図られるにすることが重要である。
	・運営組織・意思決定機関は効率的に機能しており、運営会議等も定期的に開催されている。	

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
3 教育活動	・教育課程においては、「教育課程編成委員会」、「カリキュラム委員会」を導入後、着実な編成が見られる。	教育課程の編成においては、多様化する時代の変化に沿ったカリキュラムの編成に取り組んでいく。
	・職員の能力開発分野においては、メンタル面の弱い学生への対応・指導の研修を行っている。また、実技の研修では、業界の専門技術者や音楽家等の実技研修も実施している。	・業界・社会が求める実践力を持った、学生を育成するための研修等を取り入れていく方針である。
4 学習成果・教育成果	・各学科の教育目標・育成人材像に向けての取り組みはなされている。	・学生の学修成果の評価に対する更なる向上を図る。
	・就職率の向上も教職員との情報の共有が図られている。	・就職率 100 %を目指し支援の改善を図っていく。
	・資格等の取得率の向上も図られている。	・学科の国家試験合格を在学中に取得できるよう努力していく。
	・卒業生の社会的な評価も卒業後の面談等で把握している。	・卒業生への技術研修会を実施し、卒業後もフォローを行うなど引き続き卒業生とのコンタクトを図っていく。
5 学生支援	・学生に対する修学支援も図られている。	・教員、学科、募集担当との、連絡を密にして、一人一人の問題点を共有することが重要である。
	・就職・進学指導に関する支援体制も整備されている。	・更に充実した就職支援体制にするためには、就職支援室からの一方的なガイダンスだけでなく、クラス別での座談会などが必要である
	・学生相談に対する相談窓口の充実を図られるような体制を望む。	・学生に対するカウンセラーに来てもらい相談する機会を提供している。
	・退学者の低減は重要であり、退学率目標をもって推進を図られたい。	・退学者の低減については、教員が授業等で把握することも重要であり、その中で学生の悩み等を掘り起こしていくが重要である。
6 教育環境	・施設・設備等は新築校舎との関連もあり充実している。	・設備等は充実している。今後は維持をしていく。
	・学内外の実習設備も充実している。	・インターン等については、積極的に受け付け、学生の現場に出る機会を増やしている。
	・防災・安全関連の体制も充実している。	・避難訓練を数回実施した。防災マニュアルの充実化を行っている。

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
7 学生の受入れ 募集	・学生の募集活動も公正かつ適正に行われている。	・オープンキャンパス、学校見学等を通じて学生募集の充実を図っていく。
	・入学選考も公平かつ適正に行われている。	・学校案内には選抜方法も明示されている。
	・学納金も妥当なものと思われる。	・学校案内にも学費等が明示されている。
8 教育の内部質 保証システム	・関連法令、設置基準等も遵守されている。	・コンプライアンス体制の を図っていく。
	・個人情報の取扱いも適正に行われている。	・教職員研修の充実を図っていく。
	・学校評価(自己評価・学校関係者評等)も組織的に行われている。	・自己点検評価の充実、教職員間での共有を図っていく。自己評価改善・改革の部分を重点的に推進していく。
9 財務	・中長期的な財務基盤は安定している。監査体制については、監事による監査力、確立されている。	・財務基盤の安定については、18 歳人口の減少が確実におとずれており、更なる募集活動の強化が望まれる。
	・予算・収支計画は綿密に計画されている。理事会・評議員会での承認を得て決定されている。	・外部監査による、健全な学校運営を維持するとともに、募集の強化、退学率の軽減等を進めて行く。
10 社会貢献	・学園祭において様々な企画等を試みて地域の方々に来校・参加していただくことにより、貢献している	・区役所と協定書を交わし、区の行事へ積極的参加をしている。
	・学生ボランティアを中心として演奏・ピアノ調律等で社会貢献をしている。	・学生ボランティアの充実、組織づくり等、ボランティア活動を通して社会貢献をしていく。
11 国際交流	・積極的な留学生募集増を目的とした活動はしていない。	・本校へ留学を希望する外国人に対して充実した受入れ体制の強化も必要である。

上記 11 項目に対し、委員による中部楽器技術専門学校の教育活動、学校運営の評価は、概ね良好であり、高い水準を維持していると思われる。

先生たちが研修でメンタルヘルスを学び、日々のケアを行っている。

卒業生には、技術研修だけではなく、店舗スタッフとして役に立つ内容の研修も行った。

教育課程の編成、実践的な教育等に、より一層の取組を期待するとともに学生の学力向上、時代に即した対応を継続していくことを望みます。